

施策名：構造改革の更なる加速

事業名	担当課・室名	ページ
水田農業構造改革推進事業	農地活用・集落営農課	1 / 8
人・農地プラン推進事業	農地活用・集落営農課	1 / 8
農地中間管理推進事業	農地活用・集落営農課	1 / 8
農地集積・集約化支援事業	農地活用・集落営農課	2 / 8
大規模園芸産地形成促進事業	園芸振興課	2 / 8
水田畑地化等基盤整備促進事業	農村整備計画課	2 / 8
おおいた和牛流通促進対策事業	畜産振興課	3 / 8
肉用子牛県内流通活性化緊急対策事業	畜産振興課	3 / 8
肉用牛生産基盤拡大支援事業	畜産技術室	3 / 8
肉用牛繁殖経営体確保・働き方改革推進事業	畜産技術室	4 / 8
繁殖雌牛生産能力向上対策事業	畜産技術室	4 / 8
肥育・繁殖牛生産性向上対策事業	畜産技術室	4 / 8
飼料コスト低減支援事業	畜産技術室	5 / 8
第12回全国和牛能力共進会対策事業	畜産技術室	5 / 8
林業事業体強化推進事業	林務管理課	5 / 8
原木中間集積地整備事業	林産振興室	6 / 8

事業名	担当課・室名	ページ
主伐・再造林システム構築事業	森林整備室	6 / 8
養殖マグロ成長産業化推進事業	漁業管理課	6 / 8
資源造成型栽培漁業推進事業	水産振興課	7 / 8
内水面漁業振興事業	水産振興課	7 / 8
浅海養殖推進事業	水産振興課	7 / 8
スマート農業普及拡大事業	地域農業振興課	8 / 8
農林漁業者経営継続緊急支援事業	新規就業・経営体支援課	8 / 8
高生産性水田農業強化対策事業	農地活用・集落営農課	8 / 8

主要な施策の成果（事務事業評価）令和2年度実績【施策コード：Ⅱ-1-(1)】

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価			
1	水田農業構造改革推進事業 （H25～） 農地活用・集落営農課 農業者の所得向上と経営安定、食料自給率の向上を目指した水田農業の構造改革の実現に向け、国の経営所得安定対策等に関して、県及び地域に設置する農業再生協議会に支援・指導を行う。	①地域農業再生協議会の運営等に要する経費の補助 178,020 ②経営所得安定対策等の制度や事務処理方法等の周知 2,450	市町農業再生協議会担当者会議の開催回数 [回]	目標値	3	3	3	主食用水稲作付面積 [ha]	目標値	22,686	20,240	19,693	A			
				実績値	3	3	—		実績値	20,400	20,000	—				
				達成率	100.0%	100.0%	—		達成率	110.1%	101.2%	—				
				区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値				事業の成果・今後の方針				
				予算	179,601	180,910	186,636	実績値				地域農業再生協議会に対し、制度内容や各種申請の事務処理方法などの周知を行い、国の経営所得安定対策等の取組を推進した。また、各市町ごとに主食用水稲作付面積の目標値を提示し、地域での協議等を行うことで作付面積については、生産の目安以下を達成することができた。				
				決算	178,038	180,801	—	達成率				引き続き、市町及び地域農業再生協議会と連携して、経営所得安定対策等を推進する。				

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価			
2	人・農地プラン推進事業 （H24～R2） 農地活用・集落営農課 効率的かつ安定的な大規模水田農業経営を確立するため、市町村が取り組む人・農地プランの「実質化」に対する支援を行う。	①人・農地プラン実質化支援事業 2,345	市町村等説明会の開催数 [回]	目標値	5	5		地域の話合いに基づき作成された人と農地の将来方針を定めたプランの数 [プラン]	目標値	200	400		A			
				実績値	12	14			実績値	286	459					
				達成率	240.0%	280.0%			達成率	143.0%	114.8%					
				区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値				事業の成果・今後の方針				
				予算	1,000	2,345		実績値				県内621の人・農地プランについて、令和元年度から地域が話し合いの熱度を高め、農地の集約化に関する将来方針を定めるプランの「実質化」に向けた取組を進め、459プランを「実質化」することができた。				
				決算	1,000	1,558		達成率				当初の目標を達成し、国庫補助事業の「人・農地問題解決加速化支援事業」が終了したため本事業を終了するが、実質化が完了していない地域については、引き続き実質化の取組を推進する。				

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価			
3	農地中間管理推進事業 （H26～R5） 農地活用・集落営農課 農業の競争力強化に向けた生産コストの削減を図るため、担い手への農地集積と集約化に取り組む農地中間管理機構の運営を支援する。	①農地中間管理機構に対する活動経費の補助 131,000 ②農地の出し手に対する機構集積協力金の交付 37,500 ③農地の売買支援に要する経費の補助 17,161	農地中間管理事業に係る市町村等説明会の開催回数 [市町]	目標値	10	10	10	機構を活用した集積面積 [ha]	目標値	300	300	600	A			
				実績値	20	13	—		実績値	422	722	—				
				達成率	200.0%	130.0%	—		達成率	140.7%	240.7%	—				
				区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値				事業の成果・今後の方針				
				予算	184,641	204,779	444,177	実績値				令和2年度の農地中間管理事業による集積面積は、駐在員の活動の定着化や重点実施区域における進捗管理等により、目標を上回る722haとなった。また、事業開始（平成26年度）以降の機構を活用した集積面積の累計は、4,144haとなった。				
				決算	181,705	198,543	—	達成率	107.7%	92.3%	—	さらなる農地の流動化を推進するため、人・農地プランの実質化に取り組む地区や基盤整備事業実施地区、大規模園芸団地の推進地区等を中心に、農地中間管理事業を活用した担い手への農地の集積・集約化に取り組む。また、新規就農者や企業の参入を促進するため、農地中間保有制度の活用を図る。				

主要な施策の成果（事務事業評価）令和2年度実績【施策コード：Ⅱ-1-(1)】

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価	
4	農地集積・集約化支援事業 (H30 ~ R2) 農地活用・集落営農課 水田の畑地化等の推進を図るため、農地の出し手と受け手との間のマッチングや、中山間地域で農地集積を推進する経営体の活動を支援する。	①農地集積・集約化した担い手に対する交付金の交付 32,826 ②農地の出し手と受け手を結びつけるマッチングの取組支援 3,680	農地中間管理機構駐在員による担い手訪問数	目標値	300	300		担い手への集積・集約が進んだ農地面積 [ha]	目標値	230	230		A	
				実績値	2,138	1,957			実績値	186	317			
			[回]	達成率	712.7%	652.3%			達成率	80.9%	137.8%			
				市町村説明会の開催数	目標値	5	5		事業の成果・今後の方針					
			実績値	12	5		令和2年度は、新規に設立した集落営農法人や規模拡大意欲のある担い手に対し関係機関が連携して農地の集積を推進するとともに、地域農業経営サポート機構等による農地のマッチングを実施した結果、目標を上回る317haの集積実績となった。							
			[回]	達成率	240.0%	100.0%		令和3年度からは、中核的担い手への農地の集積・集約化を進めるため、「農地利用最適化促進事業」として、人・農地プランの実質化が完了した地域の集積・集約化計画に基づく取組等に対し支援するとともに、担い手ニーズの高い集約された農地の確保に向けた支援策を検討する。						
	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値									
	予算	20,900	36,506		実績値									
	決算	20,578	36,412		達成率									

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価		
5	大規模園芸産地形成促進事業 (R2 ~ R4) 園芸振興課 園芸品目の振興と水田農業の構造改革を加速し、大規模園芸産地を育成するため、市町村が策定する「園芸団地づくり計画」に基づく取組等に対して重点的に支援する。	①米から露地野菜への生産転換に係る種苗、肥料代等への支援 6,085 ②「園芸団地づくり計画」に基づく、園芸品目の導入実証等への支援 4,750 ③畑地化用水田の農地提供者への協力金の交付 3,800	水田畑地化の担い手調査回数	目標値		4	4	水田への高収益作物の導入面積 [ha]	目標値		100	100	A		
				実績値		4	—		実績値		108	—			
			[回]	達成率		100.0%	—		達成率		108.0%	—			
				研修会の開催回数	目標値		1	1	事業の成果・今後の方針						
			実績値		2	—	水稲から露地野菜への生産転換の経費補助や協力金の交付などにより、大規模産地の形成が加速した。また、新規露地栽培の取組に対するリスク低減対策は、気象条件等によって販売額が大きく減少するような状況に至らなかったため、年度途中で予算を減額したが、引き続き令和3年度でも予算計上しリスク対策を行っていく。								
			[回]	達成率		200.0%	—	令和3年度からは、振興局単位でまとまった農地確保の体制を整え、園芸団地育成の取組を加速させている。まずは白ねぎを重点推進し、他品目にも波及させることで、さらなる大規模園芸産地の育成につなげる。							
	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値		3	3							
	予算		19,325	61,628	実績値		3	—							
	決算		16,614	—	達成率		100.0%	—							

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価	
6	水田畑地化等基盤整備促進事業 (R2 ~ R4) 農村整備計画課 水田の畑地化による園芸品目の導入を促進するため、園芸団地づくり計画策定地域において、園芸品目栽培に適した水源及び客土用砂を確保するための調査を行う。	①水田畑地化や樹園地の再編整備に必要な水源調査 7,990 ②栽培面積拡大を推進する白ねぎ栽培に必要な客土用砂の賦存量調査 2,200	独自水源を必要とする地区から選定した水源調査地区数	目標値		2	2	調査により確保した水源地区数 [地区]	目標値		1	1	A	
				実績値		2	—		実績値		2	—		
			[地区]	達成率		100.0%	—		達成率		200.0%	—		
				開取りや文献調査等で選定した土取場候補地の地区数	目標値		4	4	事業の成果・今後の方針					
			実績値		4	—	水田畑地化や樹園地再編整備の推進にあたり、独自水源を必要とする2地区(平石地区、長目地区)において、調査を行った結果、水源確保の目的を立てる事ができた。							
			[地区]	達成率		100.0%	—	また、土取場候補地は、開取り等により4地区(中津港ほか3地区)を選定し賦存量調査を行った。						
	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値			引き続き、園芸産地づくりに向けた水源及び白ねぎ栽培に必要な客土用砂の賦存量調査を実施していく。						
	予算		10,790	12,300	実績値									
	決算		10,620	—	達成率									

主要な施策の成果（事務事業評価）令和2年度実績【施策コード：Ⅱ-1-(1)】

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価
7	おおいた和牛流通促進対策事業 (H28～R5) 畜産振興課 「おおいた和牛」の認知度向上と流通拡大を図るため、戦略的なPR対策を実施する。	①PR会社への委託による県内外での効果的なPR事業の展開 30,000 ②サポーターショップが実施するイベントや販促資材作成等に対する支援 8,000	おおいた和牛によるPRイベントの開催回数 [回]	目標値	4	4	19	豊後牛取扱認定店舗数(※) [累計：店舗]	目標値	310	370	—	B
				実績値	8	15	—		実績値	348	352	—	
			達成率	200.0%	375.0%	—	達成率		112.3%	95.1%	—		
			商談回数 [回]	目標値	72	72	72	事業の成果・今後の方針					
				実績値	92	82	—	25店舗の新規の取扱認定店を獲得したが、新型コロナウイルスの影響により既存の21店舗の取扱認定店が閉店等したため目標値には達しなかった。					
				達成率	127.8%	113.9%	—	今後は、大消費地での量販店等の「買える」店舗を開拓するとともに、情報発信を強化することで、おおいた和牛を食べる機会を増やし、さらなる認知度の向上と定着並びに流通拡大を図る。 (※)令和3年度の成果指標及び目標値 「おおいた和牛」取扱店舗数 205 [累計：店舗]					
			区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値				目標値		
予算	56,535	43,822	48,213	実績値				実績値					
決算	54,605	43,277	—	達成率				達成率					

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価
8	肉用子牛県内流通活性化緊急対策事業 (R2～R2) 畜産振興課 肉用子牛の県内流通の活性化と県内和牛の生産体制の維持を図るため、県内肥育農家の県内市場からの子牛導入に要する経費に対し助成する。	①県内肥育農家の子牛導入に対する助成 63,610	県産子牛を導入する肥育生産者数 [戸]	目標値		34		県内去勢子牛価格全国市場価格差 [千円]	目標値		10.0		A
				実績値		34			実績値		17.2		
				達成率		100.0%			達成率		172.0%		
			普及推進飼料の作成・配布 [回]	目標値		1		事業の成果・今後の方針					
				実績値		1		新型コロナウイルスの影響を受け、市場価格は一時低落したが、コロナ対策の交付金を活用し、34戸で子牛導入を行った結果、価格は回復基調で推移した。また、県内去勢子牛平均価格は全国価格を17.2千円上回るなど、顕著な成果が見られ、県内和牛生産の安定につながった。					
				達成率		100.0%							
			区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値				目標値		
予算		63,610		実績値				実績値					
決算		54,016		達成率				達成率					

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価
9	肉用牛生産基盤拡大支援事業 (H29～R5) 畜産技術室 肉用牛の生産基盤を強化するため、繁殖・肥育農家の増頭につながる取組等を支援する。	①大分県畜産公社による肥育牛素牛預託及び飼育管理預託方式に対する支援 2,007,536 ②繁殖雌牛の増頭を行う繁殖農家に対する支援 56,213	肥育重点農家への個別事業推進戸数 [戸]	目標値	20	20	20	繁殖雌牛の飼養頭数 [累計：頭]	目標値	17,600	17,780	18,650	B
				実績値	22	20	—		実績値	17,300	17,400	—	
			達成率	110.0%	100.0%	—	達成率		98.3%	97.9%	—		
			増頭推進会議の開催回数 [回]	目標値	25	25	25	事業の成果・今後の方針					
				実績値	35	28	—	増頭推進等の会議や農場指導を通じて、事業の周知や生産技術指導を行った。また、規模拡大を図る農家がゲノム育種価を活用した産肉能力の高い繁殖雌牛を増頭する際の経費支援や、大分県畜産公社が行う肥育牛預託貸付制度の原資を増額し、預託事業の推進を行った結果、飼養頭数の増加につながった。					
				達成率	140.0%	112.0%	—	引き続き、肉用牛の増頭加速に努める。					
			区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値				目標値		
予算	1,559,917	2,064,948	1,687,683	実績値				実績値					
決算	1,528,617	2,049,980	—	達成率				達成率					

主要な施策の成果（事務事業評価）令和2年度実績【施策コード：Ⅱ-1-(1)】

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価		
10	肉用牛繁殖経営体確保・働き方改革推進事業 (H30～R2) 畜産技術室 将来の基幹的肉用牛繁殖経営体の確保に向け、後継者などの新規就農者が行う施設整備等を支援するとともに、作業の外部化を推進する。	①50頭以上の経営計画を有する新規就農者の施設・省力化機器整備に対する助成 13,371 [戸] ②肉用牛ヘルパーの活用やキャトルステーションの県域展開の検討による作業外部化の推進 2,791 [回] ③新規就農者のヘルパー活用に対する助成 121 [回]	新規就農者への個別指導戸数	目標値	12	12		就農後5年目に50頭規模を目指す新規繁殖農家数 [累計：戸]	目標値	10	15		A		
				実績値	13	16			実績値	10	15				
				達成率	108.3%	133.3%			達成率	100.0%	100.0%				
			区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度					事業の成果・今後の方針				
			予算	19,065	16,939					施設整備の支援を行うことで、就農後5年目に50頭規模を目指す新規繁殖農家数は目標を達成し、後継者の確保へつなげた。 令和3年度からは、親元就農による担い手の確保と肉用牛ヘルパーの活用等作業外部化の取組を進め、省力化と規模拡大の両立を目指すために「肉用牛担い手総合対策事業」を実施する。					
			決算	18,069	15,989										

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価	
11	繁殖雌牛生産能力向上対策事業 (R1～R3) 畜産技術室 県内子牛市場の活性化による生産者の所得向上を図るため、県外高能力牛を活用した県産種雄牛の造成に取り組むとともに、ゲノム育種価を活用した高能力繁殖雌牛の育成を支援する。	①ゲノム育種価評価を活用した人工授精経費の助成 10,200 [頭] ②ゲノム育種価検査料の助成 7,920 ③高能力雌牛の購入 5,396 ④高能力種雄牛の精液の購入 3,000 [回]	本事業による人工授精頭数	目標値	1,000	1,000	1,000	高能力雌牛保留頭数 [頭]	目標値	750	750	750	A	
				実績値	1,220	2,056	—		実績値	486	823	—		
				達成率	122.0%	205.6%	—		達成率	64.8%	109.7%	—		
			区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度				事業の成果・今後の方針				
			予算	25,681	27,288	42,395				関係機関・生産者に対し、リモート会議等で周知を図り、事業の浸透が進んだことで、人工授精頭数やゲノム育種価評価実施頭数が伸び、その結果高能力雌牛保留頭数が増加した。 過去2カ年のゲノム評価実績では、母牛と子牛の育種価に乖離が見られたため、令和3年度は、ゲノム育種価評価事業について母牛要件を無くし、評価実施頭数をさらに増やすことで、高能力雌牛保留頭数のさらなる増加を図る。				
			決算	20,319	24,602	—								

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価	
12	肥育・繁殖牛生産性向上対策事業 (R2～R4) 畜産技術室 全国トップレベルの肉用牛産地づくりを推進するため、枝肉重量の向上や分娩間隔の短縮などに重点を置いた肥育・繁殖技術の指導体制を強化するとともに、飼養環境の改善に向けた施設整備等を支援する。	①飼養環境改善のための施設整備などに対する助成 13,212 [回] ②技術指導体制の強化に向けた資機材整備 7,238	事業説明会回数	目標値		12	12	肥育牛の平均枝肉重量 [kg]	目標値		502	508	A	
				実績値		15	—		実績値		504	—		
				達成率		125.0%	—		達成率		100.4%	—		
			区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度				事業の成果・今後の方針				
			予算		23,922	30,222				牛舎の暑熱対策、省力化に係る施設整備の支援により繁殖牛、肥育牛の飼養環境が改善され生産性が向上した。また、各地域で体重計を導入し正確な発育を把握することで、細やかな飼育管理が可能となり発育向上へつなげた。 引き続き、高齢化や担い手不足に対応するため、省力化整備等を継続することで生産体制の強化を図る。				
			決算		22,923	—								

主要な施策の成果（事務事業評価）令和2年度実績【施策コード：Ⅱ-1-（1）】

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価
13	飼料コスト低減支援事業 （R1～R3） 畜産技術室 畜産農家の生産コストを削減するため、飼料用米を使ったSGSの供給体制強化を支援するとともに、使用促進に向けた広域流通体制を整備する。	①SGS製造拠点と県内各保管倉庫をつなぐ広域流通網の構築実証 1,490 ②SGS調整機械のレンタル料の助成 234	SGS生産指導及び研修会回数	目標値	3	5	5	SGS廃棄率	目標値	14.0	10.0	7.0	A
				実績値	2	5	—		実績値	5.1	7.6		
			[回]	達成率	66.7%	100.0%	—	[%]	達成率	163.6%	124.0%	—	
				流通状況調査及び関係者協議の回数	目標値	3	4		4	事業の成果・今後の方針			
			[回]		実績値	4	15	—	関係機関とSGS生産、供給等について協議を重ね、SGS利用戸数は20戸から30戸まで増加し、SGS用米作付面積も84haから144haまで拡大した。令和2年度は病害虫発生による原料用米の品質低下等から廃棄率が上昇したが、SGSの品質向上に向け、先進地の情報提供や成分分析への補助等を行うとともに、広域流通推進に向けた飼料製造・給与実証を実施した。引き続き、生産技術向上及び供給体制強化への対策を進める。				
				達成率	133.3%	375.0%	—						
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値									
予算	3,828	2,048	4,281	実績値									
決算	3,104	1,445	—	達成率									

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価
14	第12回全国和牛能力共進会対策事業 （H30～R4） 畜産技術室 令和4年に鹿児島県で開催される第12回全国和牛能力共進会において優秀な成績を収めるため、優れた出品牛の作出に取り組む。	①生産者意欲の高揚と出品対策強化を図る協議会の設立 1,558 ②出品モデル肥育牛の造成 990	県推進協議会等開催回数	目標値	6	6	6	臨時市場出荷頭数（※）	目標値		100	—	D
				実績値	13	11	—		実績値		56		
			[回]	達成率	216.7%	183.3%	—	[頭]	達成率		56.0%	—	
				肥育試験牛体側・血液検査頭数	目標値	12	12			事業の成果・今後の方針			
			[頭]		実績値	24	48		臨時市場上場までの肉牛区候補産子の分娩管理と飼養管理を各地区で巡回指導した。期間を区切ったの人工授精であるため、不受胎・流・死産や雌産子のための候補除外もあり、出荷頭数は56頭となったが、脂肪の質を高めるオレイン酸能力の高い種雄牛と雌牛を選抜し出品候補牛の計画的な生産が進んでいる。 令和3年度は、各地区で衛生管理、飼養管理を徹底することで、56頭全頭が令和4年度の最終選抜に残るよう指導する。 （※）令和3年度の成果指標及び目標値 肉牛区候補牛生存率 98.0[%]				
				達成率	200.0%	400.0%							
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値									
予算	8,716	3,388	5,646	実績値									
決算	8,391	2,550	—	達成率									

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価
15	林業事業体強化推進事業 （H27～） 林務管理課 主伐・再造林を一体的に担う中核的な林業経営体を育成するため、先端技術を活用した業務の省力化や人材育成などを支援する。	①高性能林業機械の導入支援 94,767 ②再造林・保育現場での機械化の実装、実用化に対する支援 5,000 ③造林機械の導入支援 4,470 ④業務の省力化や人材育成に資する研修開催に対する支援 566	高性能林業機械導入台数	目標値	24	25	24	中核林業経営体数	目標値	15	19	23	A
				実績値	17	23	—		実績値	18	19		
			[台]	達成率	70.8%	92.0%	—	[経営体]	達成率	120.0%	100.0%	—	
				造林機械導入台数	目標値		10		10	事業の成果・今後の方針			
			[台]		実績値		6	—	新型コロナウイルスの影響により機械作業等の視察を目的とした海外での研修会が実施できず、木材需要も落ち込んだことから林業機械の導入意欲は減退したものの、主伐・再造林に意欲のある経営体を中心に指導を行った結果、中核林業経営体数は19経営体となった。 引き続き、森林施業の機械化や省力化を推進し、中核的な林業経営体の育成を図る。 （翌年度繰越額 81,551千円）				
				達成率		60.0%	—						
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値	11	16	8						
予算	150,203	104,803	110,791	実績値	11	1	—						
決算	52,749	22,609	—	達成率	100.0%	6.3%	—						

主要な施策の成果（事務事業評価）令和2年度実績【施策コード：Ⅱ-1-（1）】

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価	
16	原木中間集積地整備事業 （H30～R2） 林産振興室 素材生産量の増加に対応し、細かな選別が不要な曲がり材を効率的に流通させるため、中間土場の整備に要する経費に対し助成するほか、大規模化・多様化する需要者ニーズに対応するため、市場等の広域連携体制の構築を支援する。	①森林組合系統の原木市場が広域連携して流通の効率化等を図る取組に対する支援 750	協議会開催数	目標値		5		原木中間集積地における原木取扱量	目標値	45,000	90,000		D	
				実績値		6			実績値	39,035	39,554			
				[回]	達成率		120.0%		[㎡]	達成率	86.7%	43.9%		
					目標値				事業の成果・今後の方針					
					実績値				新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、主伐から間伐にシフトしたことや、当初計画していた集積地の整備を行うことができなかったため、目標値には達しなかった。					
					達成率				一方、森林組合系統で組織する協議会を立ち上げ、コーディネーター派遣等の支援を行うことで、原木供給の広域連携体制を構築することができた。 今後は、令和元年度までに整備した6か所の原木中間集積地や広域連携体制を活用し、効率的な原木供給を推進する。					
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度											
予算	30,478	1,028												
決算	29,627	830												

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価	
17	主伐・再造林システム構築事業 （H30～R2） 森林整備室 森林施業の低コスト化を実現するため、主伐から再造林までの一貫作業システムの導入に取り組む事業体を支援するほか、主伐への本格移行に伴う再造林面積拡大に対応するための苗木の増産等に要する経費に対し助成する。	①コンテナ苗等の生産設備や採穂作業、採穂園造成などに要する経費の補助 26,798 ②全木集材と再造林の一貫作業に要する経費の補助 9,210 ③造林の省力化に向けた測量用ドローン導入に要する経費の補助 6,115	スギ挿し木苗生産量	目標値	1,300	1,350		低コスト再造林面積全体に占める一貫作業の実施割合	目標値	4.0	4.0		A	
				実績値	1,178	1,236			実績値	7.7	4.8			
				[千本]	達成率	90.6%	91.6%		[%]	達成率	192.5%	120.0%		
					目標値	5	5		事業の成果・今後の方針					
					実績値	6	10		伐採から植栽までを連続して行い造林コストの低減を図る一貫作業については、経費補助等により、県下に手法が普及しており、当初の目的を概ね達成したことから終了する。					
					達成率	120.0%	200.0%		なお、拡大するスギ苗木需要に対する増産対策の強化と、将来の森林資源の平準化等に向けた、早生樹（コヨウウザン）造林の推進を図るため、令和3年度から「苗木増産・再造林支援事業」を実施する。 （翌年度繰越額 19,184千円）					
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度											
予算	43,341	42,123												
決算	12,430	21,468												

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標	達成度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	評価	
18	養殖マグロ成長産業化推進事業 （R1～R3） 漁業管理課 今後の成長が期待できる養殖マグロの振興を図るため、大分方式の深層型養殖生け簀等を活用した赤潮被害に強い養殖手法について実証するとともに、カキの浄化能力を用いた赤潮被害対策の検証に取り組む。	①新型養殖資材の実証・養殖手法確立のための調査 20,712 ②カキによる赤潮抑制効果の検証 12,535 ③深層型養殖生け簀開発に対する助成 2,230	赤潮調査回数	目標値	16	16	16	新型生け簀における赤潮被害率	目標値	10.0	10.0	10.0	A	
				実績値	16	17	—		実績値	0.0	0.0	—		
				[回]	達成率	100.0%	106.3%	—	[%]	達成率	200.0%	200.0%	—	
					目標値	4	4	4	事業の成果・今後の方針					
					実績値	7	7	—	導入した新型生け簀（深層型生け簀）において、赤潮発生水域よりも深層でのマグロの遊泳を水中画像で確認できた。また、生け簀の改良により、マグロの死亡率を令和元年度の10%から令和2年度は2%に軽減できた。					
					達成率	175.0%	175.0%	—	令和3年度は、新たに「養殖漁場の底質調査」及び「カキ養殖による赤潮除去シミュレーション」を実施する。					
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度											
予算	38,159	35,477	45,040											
決算	36,798	35,295	—											

主要な施策の成果（事務事業評価）令和2年度実績【施策コード：Ⅱ-1-（1）】

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度			成果指標	達成度			評価				
				令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度					
19	資源造成型栽培漁業推進事業 （R2～R4） 水産振興課 水産資源を早期に回復させるため、放流魚種（9魚種）ごとの資源管理目標を設定するとともに、漁獲する魚の体長制限の強化など、漁業者の自主規制のレベルに応じて、種苗放流を段階的に支援する。	①種苗放流による資源回復支援 68,289	アワビの漁獲での放流個体の混入率 [%]	目標値		50.0	50.0	放流種苗上乗せ数 [千尾]	目標値		5,494	5,494	C		
				実績値		87.0	—		実績値		4,904	—			
				達成率		174.0%	—		達成率		89.3%	—			
				区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値				事業の成果・今後の方針			
				予算		68,877	73,388	実績値				令和2年度は、財政的な事情により自主放流数を減らした地区があったことから上乗せ数は目標に達しなかったものの、漁獲サイズの制限や産卵期の休漁など、資源管理計画の内容に応じて段階的に種苗の上乗せ支援を行うことで、水産資源の早期回復が図れた。			
				決算		68,704	—	達成率				引き続き、資源管理と種苗放流の一体的な取組により、沿岸地域の活力向上を図る。			

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度			成果指標	達成度			評価				
				令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度					
20	内水面漁業振興事業 （S53～） 水産振興課 内水面資源の保護・育成及び内水面漁業の振興を図るため、アユ等の増殖経費やカワウ食害防止対策への助成及び外来魚による食害防除対策指導等を行うとともに、内水面漁協が行う水産物の消費拡大の取組を支援する。	①資源維持増大事業 7,078 ②カワウ食害防止事業 1,993 ③外来魚食害防止事業 223	増殖事業に取り組む漁協数 [漁協]	目標値	15	15	15	アユ漁獲量 [kg]	目標値	76,000	76,000	76,000	D		
				実績値	15	15	—		実績値	76,752	59,820	—			
				達成率	100.0%	100.0%	—		達成率	101.0%	78.7%	—			
				区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値	6	6	6	事業の成果・今後の方針			
				予算	7,538	9,830	12,490	実績値	8	8	—	7月豪雨における河川の氾濫や護岸及び河床の崩壊により、アユ等水産生物の流出や生息場の喪失等が生じたことで漁獲量は減少した。特に被害が大きい県西部のアユ漁獲量は、前年度比63%と低調となった。			
				決算	7,048	8,876	—	達成率	133.3%	133.3%	—	食害防止対策については、カワウの捕獲や遮光カゴ、建網を用いたブルーギル等の駆除の取組を支援した。			
								目標値	1	2	2	今後も、アユ等の増殖やカワウ等による食害防除に取り組む、内水面の資源回復及び振興を図っていく。			

No.	事業名・事業概要・予算額	主な事業内容	活動指標	達成度			成果指標	達成度			評価				
				令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度					
21	浅海養殖推進事業 （H30～R2） 水産振興課 浅海地域の漁業者の経営安定を図るため、地域の特性を生かした新たな養殖技術を確立するとともに、既存養殖業の安定生産を推進する。	①養殖の生産性向上を目指した環境モニタリング 3,655 ②タイラギ投棄貝を利用した養殖実用化対策 2,728 ③アサリ養殖実証事業 1,003	アサリの新たな養殖方式の実証数（養殖方式数） [方式]	目標値	2	2		アサリ等養殖実証産出生産者及びクルマエビ養殖生産者数 [者]	目標値	44	55		A		
				実績値	2	2			実績値	44	59				
				達成率	100.0%	100.0%			達成率	100.0%	107.3%				
				区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	目標値	2	2		事業の成果・今後の方針			
				予算	7,386	7,386		実績値	2	2		アサリについては、守江湾や中津干潟で養殖の実証実験を行い、前者で10トンの現存量を確認し、令和3年4月に試験出荷した。			
				決算	7,386	6,738		達成率	100.0%	100.0%		タイラギについては、人工種苗を2千個生産し、人工種苗を用いた養殖技術の開発・普及に必要な技術を確認した。			
								目標値	2	2		クルマエビについては、養殖池で環境データを採取し、最大の生産阻害要因である疾病に備えたが、本年度は発生がなかった。			

主要な施策の成果（事務事業評価）令和2年度実績【施策コード：Ⅱ-1-（1）】

No.	事業名・事業概要・予算額				主な事業内容	活動指標	達成度			成果指標	達成度			評価						
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度							
22	スマート農業普及拡大事業 （ R1 ～ R3 ） 地域農業振興課 農業の省力化・高品質化を図るため、ICT等の先端技術を活用したスマート農業の実証等に取り組む。				①タブレット等ICTを活用した効率的な推進体制の確立 3,177 ②ドローン画像を活用した生育診断技術などの新技術の研究・開発 1,718 ③自走式リモコン草刈機などの新技術の普及実証 377	スマート農業技術研修会の開催回数 [回] 大規模経営に対応した技術の開発取組件数 [累計：件] 実証圃の設置数 [箇所]	目標値	1	2	2	スマート農業技術導入経営体数 [経営体]	目標値	270	500	525	A				
							実績値	1	2	—		実績値	477	508	—					
							達成率	100.0%	100.0%	—		達成率	176.7%	101.6%	—					
							区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度		目標値	2	2	3	事業の成果・今後の方針				
							予算	14,717	5,272	10,381		実績値	2	2	—	自走式リモコン草刈機やアシストスーツの現地実証、データを活用した農業に関する研修会の開催により、スマート技術の導入を推進した結果、導入経営体数は31増加し、508経営体となり着実な増加につながっている。				
							決算	13,865	4,914	—		達成率	100.0%	100.0%	—	引き続き、スマート技術の現地実証等により、技術導入や活用の促進を図るとともに、令和2年度末に新たに立ち上げた農林水産業スマート技術研究会で新技術の開発実証の取組も進め、技術の普及拡大と農業の省力化や生産性向上につなげる。				

No.	事業名・事業概要・予算額				主な事業内容	活動指標	達成度			成果指標	達成度			評価						
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度							
23	農林漁業者経営継続緊急支援事業 （ R2 ～ R2 ） 新規就業・経営体支援課 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた農林漁業者の事業継続に向け、スマート技術の導入による生産方式の転換等を図る農林漁業者に対し、国の経営継続補助金に上乘せして助成する。				①国補助金を活用し、県が推進するスマート技術を活用した機械・設備等を導入した際の経費補助 134,400	国補助金支援機関向け説明会開催（支援機関を通じた県補助金の周知） [回] 国補助金採択者向けの県補助金の周知 [%]	目標値			2	当事業を活用したスマート農林水産技術導入経営体数 [経営体]	目標値			700	—				
							実績値			2		実績値			—					
							達成率			100.0%		達成率			—					
							区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度		目標値			100.0	事業の成果・今後の方針				
							予算		135,000			実績値			100.0	当該事業は、国補助金の活用を前提としているが、国補助金の採択に遅れが生じたため、令和3年度に予算を繰り越して事業を実施する。助成対象となる農薬散布用ドローン、農業用ハウスの環境制御システム等の申請が見込まれる。				
							決算		47			達成率			100.0%	今後も、県スマート農林水産業推進方針に沿って、スマート技術の導入推進、生産性の向上を図っていく。 (翌年度繰越額 134,400千円)				

No.	事業名・事業概要・予算額				主な事業内容	活動指標	達成度			成果指標	達成度			評価						
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度			令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度							
24	高生産性水田農業強化対策事業 （ R2 ～ R4 ） 農地活用・集落営農課 水田農業経営体の規模拡大と低コスト・高収益化を実現するため、スマート農業技術の実証を行うとともに、高性能農業機械等の導入を支援する。				①先端的な水田農業経営体育成に必要な営農機械類の整備支援 85,755 ②中山間地スマート水田農業のモデル実証 42,610 ③平坦部水田の高精度水管理システムの実証 622	先端的水田農業経営体育成対策事業箇所数 [箇所] スマート農業技術導入経営体数(水田農業経営体) [累計：経営体]	目標値			7	担い手の主食用米生産コスト(平坦) [円/60kg]	目標値	—	12,000	11,200	—				
							実績値			6		実績値	14,445	—	—					
							達成率			85.7%		達成率	—	—	—					
							区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度		目標値			30	事業の成果・今後の方針				
							予算		130,833	41,241		実績値			87	本事業や国の経営継続補助金の活用により、ドローンによる農薬散布等のスマート技術を導入した経営体数は87となった。				
							決算		51,922	—		達成率			290.0%	また、農研機構のスマート農業実証事業を活用して、中山間地におけるスマート水田農業のモデル実証を行った。 引き続き、スマート農業技術を導入する経営体の育成・支援を行う。成果指標の令和2年度の実績値は、8月末までに確定する予定。 (翌年度繰越額 17,937千円)				